

# 「萩明倫館と北道の駅めぐり」

九月二十八日大殿春秋会研修親睦部会による家族会親睦バスツアー「萩明倫館と北道の駅めぐり」が開催されました。山口ふるさと伝承総合センター前に集合し、おおすみ観光の中型バスにて会員家族十七名でいざ出発。

最初に萩城下町の窓口、道の駅萩往還に到着。朝早いせいかわ客はまだ模様ながら各施設は開いていました。松陰記念館があり松下村塾が再現されていました。萩城下町のジオラマ模型もあり、ボランティアの方



から説明や昔話をさせていただきました。次に城下町に入り萩明倫学舎の跡地に昭和十年に建築された日本最大級の木造校舎で、平成二十六年まで小学校として使われていたそうです。

ボランティアガイドさんの案内で二号館「幕末ミュージアム」を見学。幕末時代の武器や装飾品、また医学・科学・地理に係るものが展示され、ガイドさんによる丁寧な説明を受けました。驚いた事にここに展示されてい

る全ての物が下関在住の個人の方の物で、寄贈品だとのこと、とても驚きました。萩明倫学舎を後にしてお待ちかねの昼食会場「竹庭萩野」へ。食事は瓦そば御膳。食後は一階のショップでお土産探し。お腹もとのつたので次の目的地「道の駅阿武町」。ここには「日本海温泉・鹿島の湯」もあります。そして、「ゆとりパーク」たまたがわ。最後に「りんごの駅徳佐」へ行き、それぞれ地元物産品の買い物を楽しみ、帰路につきました。



## 春秋会蹴鞠チーム その後

RY山口の七〇周年記念事業特別番組「この号が出る頃には放送済」に大殿春秋会蹴鞠（サッカー）部が出演していたのをご存知ですか？ほぼカットでしょうが、声がかかったのは昨年末。内容は「大内蹴鞠ワールドカップ」で特別賞に輝いた大殿春秋会にお手伝い頂きたいとの事。そういえば二年前の一月、築山史跡公園で行われたこのイベントで高齢軍団にも関わらず予選を勝ち抜き賞も頂きました。きっかけは二〇二三年忘年会で「俺も大殿中学校ではサッ



カー部じゃったそいや」の一声から「実は僕も、出よういな」とかなり年の差がある先輩後輩が参集、合計年齢では群を抜く高齢にも拘らず予選突破で見事表彰されたのオフア。優勝チームと八坂神社周辺で三年越しのテレビ収録当日は特別ゲストのノンスタイル井上氏も加わり、寒いが楽しい一日となりました。さすがにメンバーはご覧の様に若返っておりますが、春秋会にも健康機運が高まり、新しく「いずれは富士山を目指す会」も結成されたとか。次回はそのトレーニングの様子をお知らせ出来るかもしれません。頑張れ大殿春秋会！

（企画部会 小山 哲彦）

## 編集後記

寒暖差の激しい日が続く昨今ですが、いかがお過ごしでしょうか。梅の花も芽吹き始め視覚的にも目に映る景色が色味を帯びてきましたね。インフルエンザB型が急増しています。手洗い・うがいを励行し予防に努めましょう！

広報部会  
部会長 宮崎 秀樹



Facebook



Instagram

# 大殿春秋

90号

令和8年3月15日

発行 大殿春秋会  
事務局 山口市後河原155番 (株) 絆 嬉野 雅彦

編集 大殿春秋会 広報部会  
部会長 山口金古曾郵便局長 宮崎 秀樹

## 相続セミナー開催

# 「親父、勘弁してくれ！」と言われなかったために

講師は当会会員・福田修平司法書士

去る一月二十二日午後七時より大殿地域交流センターに於いて、研修親睦部会の今年度最後の事業として相続セミナーを開催した。ユニークなタイトルなのでどんな内容になるかと楽しみました。講師は大殿春秋会の若きホープ福田修平司法

書士。まず、講師の自己紹介。そして講義の内容に入っていく。講師の第二声、「皆さんに聞きます。相続の件で、何を最初に聞くとおもいますか？遺産の額だと思えますか？そうではなく、まず家族構成を一番に確認します。」そ

れは家族の実態を把握するためです。遺産相続で採める七割が相続遺産額五千万円以下の人達です。相続トラブルで「うちは大丈夫」という思い込みが一番危険です。相続対策で重要な事は遺言書



を書く事。「誰に何をどれだけ渡すか」そして、遺言書にメッセージも書く事ができます。これは重要です。

相続で採める  
リスクランキング

- 一位 不動産が多い人
- 二位 介護の負担に差がある人
- 三位 相続人の中に高齢者がいる
- 四位 借り入れが残っている
- 五位 子供がいない

こういったリスクを踏まえ、いつ認知症になるか、いつ死ぬかわからないので「親父、勘弁してくれ！」と言われなかったために、今できる準備をする事が大切で。

法律は「正しい人」ではなく、法律を「知っている人」の味方です。

最後に、実現したい事は「平等ではなく公平な相続」だそうです。

参加された皆様にはとても興味を引く内容だったと思います。一時間の講義があつと言う間でした。そして質疑応答も二十分間。充実したセミナーでした。

尚、ご要望があれば、司法書士法人・行政書士やまぐち中央事務所まで。

（研修親睦部会）  
堀 博之

# 新たな一年の幕開け 新年役員会 & 懇親会



去る令和八年一月十三日(火)、「春秋会 新年役員会・懇親会」が、大市町の「東天閣」にて開催されました。本年は役員十九



名が出席という高い出席率となり、活気に満ちたスタートとなりました。懇親会のはじめに、スポーツ

観戦をこよなく愛する堀北会長より、本年の冬季オリンピックの話や県内のスポーツを交えた挨拶がありました。宴席を彩る料理も、新春らしい驚きが用意されていました。皿の上には、今年の干支である「午(うま)」が見事なニンジン

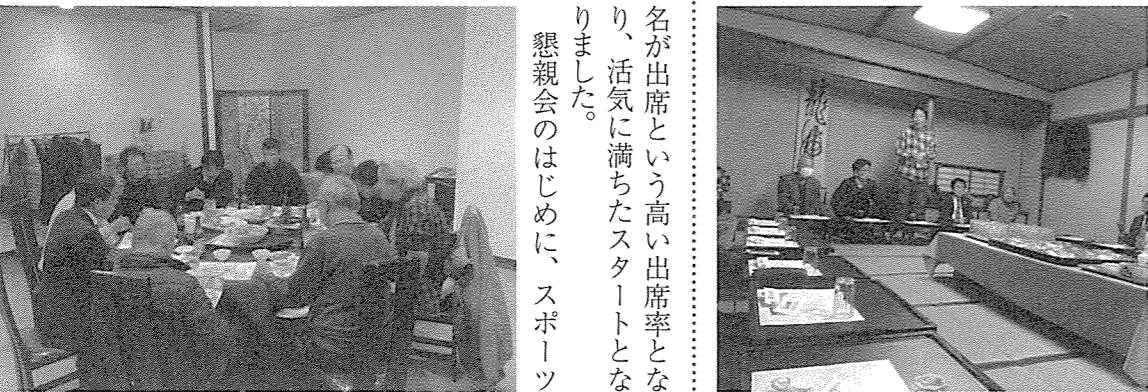
新役員と先輩役員が熱心に語り合う姿も見られ、世代を超えた交流に、会場は終始和気あいあいとした温かい空気に包まれました。宴の締めくくりは、髪工房パークラマシの倉増氏によるご挨拶での力強いお言葉で一本締めを行いました。若い力も加わり、「万事ウマくいく」幸先の良い年となるよう、役員一同、会をより一層盛り上げ、地域の発展のために尽力してまいります。

皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

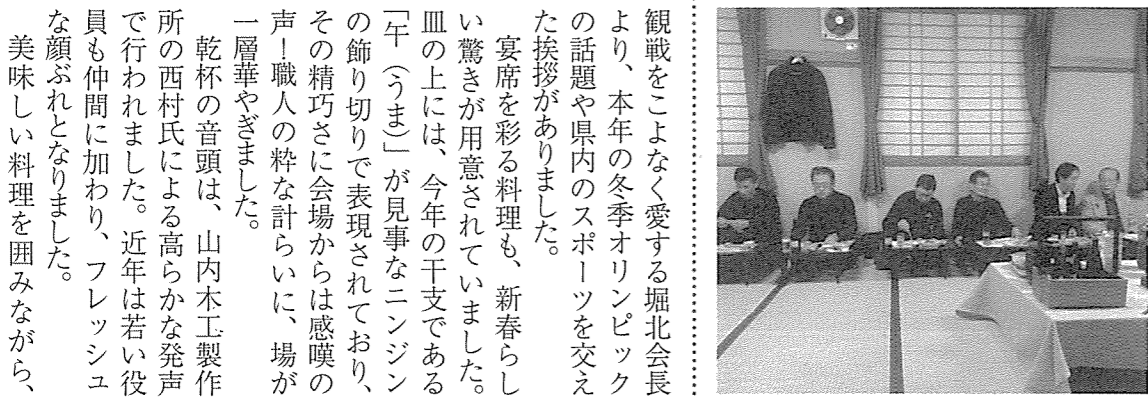
総務部会  
田中 哲平



去る十二月九日、久保小路の「二水」にて春秋会の忘年会が開催されました。今年の忘年会は、例年のような余興や出し物が行わず、落ち着いた雰囲気の中で「食事と会



話」をじっくりと楽しむ時間となりました。会場では、旬の食材を生かした料理に舌鼓を打ちながら、会員の皆様が膝を突き合わせ、業種の垣根を超えた意見交換が行われました。話題は



昨今の物価高騰や人手不足といった厳しい現実にまで及びました。現場での苦労話を共有し、今年一年の活動を振り返りながら、情報交換の輪は一段と広がりました。普段はなかなかくっ

くり話す機会のない方ともじっくり言葉を交わすことができ、会員同士の絆をより一層深める機会となりました。忘年会は一年の苦労を忘れる場ですが、それと同時に、人との繋がりを忘れないための場でもあると感じております。この度の語らいを通じて、地域の仲間の温かさを再確認できた素敵なひとときとなりました。ここで得た新たな視点やエネルギーを糧に、新年に向けて会員の皆様や、大殿の町とともに歩みを進めていきたいと思います。

総務部会  
田中 哲平

# 語らい・味わい・絆を深めた 忘年会

# 第31回『大殿ふるさと祭り』を盛り上げ 雨にも負けず！フランクフルト完売！



令和七年十一月九日朝より小雨模様の中、第三十一回大殿ふるさと祭りが開催された。大殿春秋会はいつもの通り大殿地域交流センター内の一画を借りて、前年と同じフランクフルトの販売と、子供達が楽しく遊べる積み木遊びの提供を行った。



雨にも負けずフランクフルト販売

力により、準備万端、堀北会長の掛け声の元、元気にスタートをきった。…つもりだったのだが、この雨天候には勝てず。フランクフルトを販売しているテントの軒先の垂れる雨を凌ぎながらの販売となった。ところが、幸い十時過ぎ頃から天気は徐々に回復に向かい、だんだんとお客さんも増え始め、お昼頃には、朝売れ残りの処分を考え相談していたのが嘘のように売れ始めた。



消火成功！（他団体コーナー）

これは、雨が止んだ後の客足の数もさることながら、会員同士焼き方や保温の仕方を相談し、お客さんに美味しく食べてもらえるよう努力した成果だとも思える。えてしてこういうイベントでの食べ物販売は、食材を仕入れて、焼いて、販売までのプロセスに、さほど気をかけていなかったかもしれない。然し私たち大殿春秋会の会員は、大殿の街並みや、風景、人



3Dプリンター体験（他団体コーナー）

情の好きな大殿地区在住に限らない企業人の集まりだ。それぞれの職種は違っても、美味しいもの、良いものを販売したいと思う知恵と工夫心を持った会員ばかりだ。それが今回の早い完売に至った結果なのかもしれない。また、積み木のブースも昼前から子供達も集まり始め、楽しく遊んでいた。最近では木材に直接触れることも少なく、板切れ、端材でた



翌日は濡れたテントの片付け

だ積み上げることに興味を示すことは、出来上がった物を与えられて遊ぶ事とは別に、面白さを感じているのだと思う。子供達には始めに、危険な積み方のみを注意するだけ。あとは自分で考え工夫して遊ぶことで楽しさを感じてもらおう。子供の創造心を育てる事も必要だ。小つちやな端材であんなに楽しく遊んでいる様子はとても微笑ましかった。今回は、積み木遊び終了後遊んだ端材を少し持ち帰ってもらい、喜んでもらった。来年は積み木のさらなる面白さを体験できるように工夫してまいります。

企画部会 会員  
西村 健治